

はまだ市民一日議会 4番

「中高生のための『居場所』の必要性について」

島根県立大学総合政策学部

4回生 浦辺 太一

0. 私の今の活動について（一部修了したものも含む）

○居場所関係

H31.1～ あぶりこスクール（都野津町）

R3.4～ かわもとあそラボ（川本町）

○学校関係

R2.8～ 島根県立江津高等学校 学習指導員（R4.3 任期修了）

R3.9～ 島根県立島根中央高等学校 進学ゼミ学習スペースサポーター

R4.5～ 島根県立平田高等学校 地域協働学習地域サポーター（R4.7 修了）

○子ども関係

H31.4～ 浜田市放課後児童クラブ 代替支援員

など

1. 居場所について

○居場所の定義について

「自己の存在感を実感でき、精神的に安心でき、ありのままの自分が受け入れられ、自分の価値を大事にしてくれる場所」（小島、青木）

○居場所での活動（あそラボの場合）

- ・自由に過ごす（宿題、携帯いじり、カードゲーム、テレビゲーム、おしゃべり、調理など）
- ・探究（プロジェクト）活動
- ・地域活動

○高校生の声

「あそラボでは自分のありのままを出すことができる」

「あそラボにいる大学生や大人はしっかり自分のことを受け止めてくれるから相談したり、いろいろ話したりできる」

「ここがあるから楽しく学校にも行けている」

2. 青少年の現状（【 】は参照先）

- ・島根県の小中学生の不登校児童生徒数 過去最多の1,257人（令和2年）

【島根県教育委員会】

- ・全国の小中高生の自殺者数 過去2番目の多さの473人（令和3年）【文科省】

- ・自分は価値がある人間だと思う高校生 33%
- ・漠然と感じる生きづらさや息苦しさを抱える高校生 38%
- ・漠然と感じる生きづらさや息苦しきの悩みについて「相談しない」と答えた高校生
70%【マクロミル、カタリバ】

(※全国の高校生 824 サンプル、有識者や学校に通っていない人も含む)

3. 浜田市の課題

障害児や不登校生徒、医療費に関することを除き、中高生世代に対する子育て支援施策があまり充実していないこと

4. 先行事例

○ゆう杉並（杉並区）

対象：小学4年生～高校生

時間：火曜日から土曜日：午前9時から午後9時（自由利用は午後7時まで）

月曜日・日曜日・祝日：午前9時から午後5時

施設：体育館、工芸調理室、ロビー、ゆうホール、スタジオ、ミキシングルーム、調光室、学習コーナー、鑑賞コーナー、集会室

できること：自由利用、各種事業への参加、自主企画の実施など

○中高生センター ジャンプ長崎（豊島区）

対象：小学4年生～高校生

時間：平日 10:00～20:00、土日 10:00～18:00、祝日休館

施設：図書コーナー、クッキングスタジオ、多目的室、学習室、音楽スタジオ

できること：自由利用、交流会、利用者会議、自主企画、イベント参加など

5. 意見等

中高生のための居場所づくり活動について議論を重ねていただきたい

6. 参照

・小島、青木（2018）「中学生の居場所感に関する研究 一居場所感向上を目的とした活動実践を通して一」

・島根県教育委員会「令和2年度生徒指導上の諸課題に関する状況について（詳細版）」

・文部科学省「児童生徒の自殺対策について」

・株式会社マクロミル・認定NPO法人カタリバ協働調査 2018年思春期の実態把握調査」

・杉並区「施設案内 児童青少年センター（建物名：ゆう杉並）」

・中高生センター ジャンプ長崎 パンフレット